

市町村レポート
福岡市

アジアの交流拠点都市として 国籍、人種、言語のバリアフリー化に注力

Striving to become a hub for interchange with Asia

5カ国語を併記した 都市サイン計画

福岡市は人口約130万、福岡市を中心としたエリアでは200万を擁し、九州の経済・社会・文化をリードする都市である。市内には米国領事館、韓国総領事館、国連機関が置かれている。

市は「アジアの交流拠点都市」を重点施策に掲げ、氾濫する案内情報を整理し、国籍や障害の有無にかかわらず、すべての人にわかりやすい都市サインの整備に注力している。

都市サインの整備は翌々年に「アジア太平洋博覧会」を控えた1987年からはじまった。市は、5カ国語を併記した歩行者系サインを中心に設置。多言語サインは国際都市福岡のイメージアップに大きく貢献した。

市は1995年の「ユニバーシアード福岡大会」を契機として、自動車系サイン、歩行者系サインを全面的に見直し、「福岡市都市サイン整備基本計画」を策定。計画の骨子は、公共施設の案内情報の的確な提供、サインの乱立防止、外国語や絵文字による表現などである。全市民的な都市サインの整備は全国でもはじめての試みであり、他自治体から注目を集めている。

歩行者系サインでは、歩行者がスムーズに目的地に着けるように2種類のサインに分類。歩行者の行動の出発点となる鉄道

駅やバスターミナルなどには、周辺の案内図(歩行可能範囲を約1400m四方と設定、5カ国語表記)を載せた起点サインを設置、行動の判断が必要となる交差点には分岐点サインが設けられている。

サイン表示板には、カラー陶板が用いられた。地図の内容が変化した場合には、この陶板を交換するだけでよい。素材には、周辺の景観を考慮してチタン材や石材が使用されている。表示面の高さは、一般成人と車イス使用者の平均眼高の中間に設定されており、ユニバーサルデザインの都市サインといえるだろう。

アジアのベスト・シティに 選ばれる

香港の『Asiaweek』誌(1997年12月号)は、アジアでもっとも住みやすい都市を、多数の調査項目から調査した結果、福岡市がアジアのベスト・シティに選ばれた。

市が国際都市へ大きく踏み出したのは、市政100周年を記念して1989年に行われた「アジア太平洋博覧会」である。この博覧会には、海外から37国・地域、2国際機関が参加し、823万人の来場者を記録した。



市内にはアジア関係の芸術文化交流施設が多数ある。写真はアジア美術館。



案内標識の凡例は日・英・仏・中・ハンガルの5カ国語で表記



1日平均700人以上の来館者がある「レインボープラザ」では、観光から生活全般にわたるさまざまな情報を提供

市は翌年、「アジア太平洋都市宣言」を行い、アジア各国の人々との交流促進のために「アジアマンス」を毎年開催することを決定。期間中は、市役所前のふれあい広場におけるアジアの屋台市など、さまざまな催し物が行われる。

市はアジアとの交流拠点都市として、コンベンション機能の充実に力を注ぎ、「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」、「アジア太平洋都市サミット」、「アジア開発銀行福岡総会」などを開催。

文化・芸術分野では、「アジア・フォーカス・福岡映画祭」、「福岡アジア文化賞」、「福岡アジア美術トリエンナーレ」などを主催している。

市はコミュニケーションのバリアを取り除くことを目的に、英・仏・中・ハンガルの4カ国語による市政概要のほか、数種類の英文定期刊行物を発行している。行政サービスの窓口となる区役所では、外国人登録、出生、婚姻、死亡、障害者サービス、高齢者サービス、納税等について記載された英語、中国語、ハンガルの小冊子を無料配布。

第3セクター方式で設立された(株)九州国際エフエムでは、日本の習慣に不慣れな海外からの居住者に、行政情報(市政情報、生活情報)を提供。英語、中国語、ハンガ語を中心に、インドネシア語、タイ語、ポルトガル語など10カ国語による放送が行われている。



米国領事館や大韓民国総領事館など外国政府機関が設けられている



外国人に対する法律相談や カウンセリングを実施

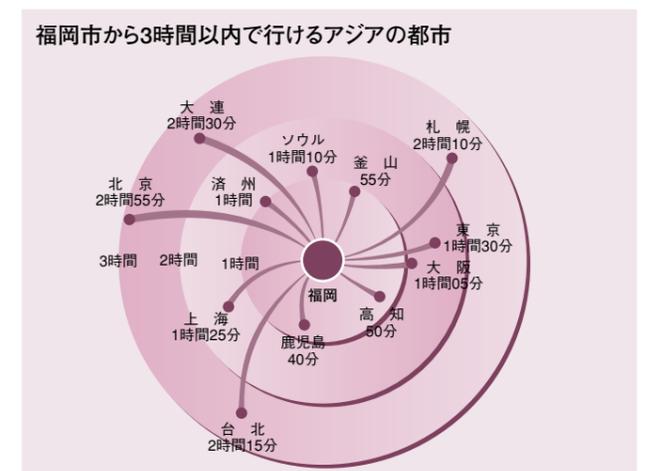
市の外国人登録者数は約1万4000人で、短期や不法滞在者を加えると、その数は数倍に膨れ上がると思われる。国籍別では、韓国・朝鮮籍、中国籍、米国籍、フィリピン籍等が多い。

外国人への情報サービスの拠点は、(財)福岡国際交流協会が運営する「レインボープラザ」である。同プラザは英語、中国語、ハンガ語を話せる常勤スタッフを配置し、生活全般についての相談業務を行っている。

相談内容は簡単な旅行情報の提供から、離婚や出生手続きまでと幅広い。また弁護士による無料法律相談や、臨床心理士によるカウンセリングも実施。来館者数は1日平均711人で、図書コーナーやビデオライブラリーの利用者が多い。イベントスペースでは、「国際漫画展・中東が見た日本」や「アジア漫画展」など、国際理解のための多彩な催事が行われている。

同プラザでは英語、中国語、ハンガ語の情報紙を発行して税関等の公共施設に幅広く配布するほか、インターネットでも情報を提供。海外で発行される旅行ガイドブックにも、同プラザの存在はしばしば取り上げられている。

異文化理解と地方発展をテーマに学術研究交流を行うのは



(財)アジア太平洋センターである。同センターに蓄積されたアジア情報や研究成果は、市民カレッジやセミナーで発表される。昨年、日本、中国、オーストラリア、マレーシアの研究者が集まり、「変わりゆく高齢者ケアのかたち～アジア太平洋諸国からの現状報告」と題した市民セミナーが開催された。

刊行物には「APCアジア太平洋研究」、「中国動向」、「韓国動向」、「福岡発・アジア研究報告」、「年報」、「APCライブラリー資料速報」などがある。

福岡市と韓国・釜山広域市は市職員の交流を行っており、現在、同センターには、釜山市国際協力観光課で約1年半の勤務経験をもつ市職員が勤務。中国人職員も働いており、職員の顔ぶれは実に多彩だ。

このような人的交流を通じて、国籍、人種、言語のバリアは、少しずつ取り除かれていくのかもしれない。

準地域中心地区に 地域交流センターを建設

市は、第7次福岡市基本計画(マスタープラン)で、区の拠点地域である「地域中心」を補完する4つの地域を「準地域中心」として位置づけて、地域交流センターを整備するとともに、商業・業務機能および交通基盤の整備・強化を図ろうとしている。

地域交流センターとは、市民センター、地区体育館などを地理的に利用しにくい地域に住む住民のために建設される施設で、コミュニティ機能を主体とした複合施設である。今後、4つの「準地域中心」に地域交流センターが整備される予定だ。

昨年10月、第1号として博多区雑餉隈地区に博多南地域交流センターが完成した。建物は都市基盤整備公団との合築で、公団が地域交流センターおよび公団賃貸住宅を建設し、完成後、市が地域交流センター部分を約30億円で取得。賃貸住宅の一部は市が借り受け、高齢者向けの市営住宅として活用される。



自然石を使った護岸工事が行われているエコパークゾーン。石と石の間に息づく生物が、海水を浄化するフィルターになる

地域交流センターは、280席の多目的ホールやバレーコート2面が取れる広さの体育館、トレーニングルーム、図書館、会議室、市民ロビー、チャイルドルーム、デイサービスセンター、行政連絡所、エントランスホールで構成。子供から高齢者まで幅広い年齢層が利用できるコミュニティセンターである。市民に広く募集し、「さざんびあ博多」の愛称がつけられた。

博多湾に浮かぶ新しいまち アイランドシティ構想

市は博多湾に浮かぶ約400haの巨大な新しいまち、アイランドシティの建設を進めている。アイランドシティは港湾機能の強化、新産業の集積拠点の形成、快適な都市空間の形成、東部地域の交通体系の整備を目的として整備される。

港湾は、将来の取扱貨物量の増大や貨物のコンテナ化、船舶の大型化などに対応する最新機能を設備。荷捌き、保管、流通加工、展示、販売などが一体となる物流ターミナルが形成される。新産業の集積拠点は、国際化、情報化の進展に対応した研究開発機能や産業機能の集積を図る。

島内には約1万8000人が暮らすことができる都市空間が形成される。このまちは災害に強く、緑地や親水空間を設け、自然とふれあえるとともに、道路の段差などを取り除いたバリアフリーのまちをめざす。

島を囲む周辺の海域や海岸線は、「自然と人の共生」をめざすエコパークゾーンとして4つのゾーンに分け整備される。和臼干潟ゾーンは、国際的にも有名な渡り鳥の飛来地で、野鳥観察に絶好のポイント、広大な干潟には豊富な海性生物が生息するなど、多様な生態系を支える場となっている。

工事が最初に行われた御島ゾーンでは、護岸や遊歩道の整備が進められている。自然石の護岸は、石と石の隙間に生物が息づき、海水を浄化する機能をもつことになる。

福岡市の概要

- 面積: 338km²
- 人口: 132万9503人(1999年10月現在)
- 世帯数: 58万6946世帯(1999年10月現在)
- 高齢化率: 13.0%(1999年11月現在)
- 市の予算: 1兆7410億円(当初予算)
- 病院数: 124(1999年8月末現在)



●首長の「視点」

すべての人が
元気になれる
活力溢れる
まちをつくる

アジアとの交流拠点都市をめざして

『Asiaweek』誌の評価で、福岡市がBest City in Asiaに選ばれました。市長のこの評価に対するご感想は?

山崎 福岡市は十数年来、「アジアの交流拠点都市」を都市戦略のテーマとして掲げ、文化・芸術、研究・開発、産業・経済など、さまざまな分野でアジアとの交流を進めてきました。このような地道な努力が、『Asiaweek』誌で高い評価を得た要因ではないでしょうか。

日本は中央への一極集中が強すぎます。海外との交流も東京が中心。これからは、海外との地域間交流が、地域社会を活性化させる鍵になると思います。福岡は大阪より釜山、東京より上海が距離的に近い。この地域性を生かして、独自にアジアとの交流を進めてきたわけです。

もともと、市長にはアジアへの強い思いがあったのでしょうか?

山崎 市議会議長時代に、「福岡はアジアである」という趣旨の本を著しています。福岡は豊かな文化を育ててきた地域です。経済交流はもちろん大切ですが、アジアの文化を捉え直し、アジアと日本の理解促進に役立てたいというのが私の思いです。

厳しい財政状況の中でも、文化事業の推進は切り捨てることはできません。9月をアジアとの交流促進を図る「アジアマンス」として位置づけて、福岡アジア文化賞の授賞式など、さまざまな催事を組んでいます。

交通機関や、街路表示に、中国語やハンゲルの案内板を見かけます。言語や国籍のバリアを取り除く、さまざまな工夫をしていらっしゃいますね。

山崎 市はアジアに開かれた都市をめざしています。実際、アジアからの留学生や観光客、ビジネスマンが多い。

外国人に対する情報サービス機関として、外国人登録の有無にかかわらず、生活上の各種相談に乗るレインボープラザを市内中心部に設置しています。また釜山広域市とは、市職員同士を交換する人的交流を実施するなど、アジアとの共生を図るために、多様な試みを行っています。



福岡市長
山崎 広太郎氏
やまさき ひろたろう ●1941年生まれ。1965年、九州大学法学部卒業。福岡市議会議員、衆議院議員を経て、1998年より現職。著書に「福岡はシナリオをつくれるか」等がある

障害があっても、アクセスが容易な都市を

市のアジア政策は、分権化時代ならではの試みですね。ところで、市長は地方分権そのものについて、どのようにお考えですか?

山崎 全国には約3300の自治体があります。そのうち約1000近くは自主財源が1割にも満たない自治体です。地方分権といっても、簡単にはいかないでしょう。どういふところから地方分権化していくかは、自治の精神をどのように育てていくかということだと思います。

国は約3000の自治体を10分の1に再編成する構想を発表しましたが…。

山崎 地方分権を推進するためには、受け皿となる自治体が十分な政策立案能力を備えていなければなりません。その点、福岡市の場合、地方分権化の潮流は歓迎すべきものです。

その1つとして、県でも「福祉のまちづくり条例」を制定の動きがありましたが、市は今年、独自に「福祉のまちづくり条例」を制定しました。この条例は、市民の協力により、順調に運用されています。

将来的には、障害の有無にかかわらず、できるだけ多くの人利用しやすいように、市民、事業者、市が一体となって、交通機関や施設の全面的な見直しを図り、都市全体の改造を進めていく必要があるでしょう。障害があっても、自宅から職場や学校に容易にアクセスできる、人にやさしい都市の創造が、私の基本的な政治スタンスです。

ユニバーサルデザインをまちづくりに生かしていくおつもりですか?

山崎 条例の精神からいって、今後、ユニバーサルデザインは重要な考え方になっていくでしょう。

すべての市民が、元気に暮らせるまちづくり、それが時代の趨勢だと思います。

市町村レポート
北九州市

**重厚長大都市から
福祉先進都市への転換**

Transformation from a city of smokestack industries to a leader in welfare services

**区レベルで
地域政策を立案、実践**

北九州市は1963年、門司、小倉、若松、八幡、戸畑の5市が対等合併してできた都市である。同市は鉄鋼業を中心とした重厚長大型の産業都市として発展してきたが、産業構造の転換により2次産業が相対的に衰退し、市内の雇用が減少。働く場を求めて、若い世代が市外に流出し、年老いた両親が地元に残るといった現象が生じた結果、全国平均を上回るスピードで高齢化が進行。全国12政令市中、もっとも高齢化率が高い。

同市には7つの行政区(門司区、小倉北区、小倉南区、若松区、八幡東区、八幡西区、戸畑区)があるが、行政区間の高齢化率は、23.3%(八幡東区)から14.2%(小倉南区)と、格差が大きく、年々拡大傾向にある。また、1行政区間における小学校区間の格差はさらに著しい。このような状況下では、地域の事情により適した行政サービスの提供が求められる。75歳以上の後期高齢者の急増や、高齢者だけの世帯が多いことも同市の特徴である。

政令市の区役所はおおむね、窓口業務を行う出先機関として位置づけられているが、同市では優秀な人材を多数、区役所に勤務させ、区レベルで地域レベルの施策を立案、実践している。

同市は1993年、市の基本構想である「北九州市ルネッサン



大正ロマンのまちを再現した門司港レトロ地区

ス構想」を踏まえて、「高齢化社会対策総合計画」を策定。同計画は、高齢者だけではなく、障害をもつ人や子どもを含めたすべての市民を対象とするもので、保健・医療・福祉をはじめ、住宅、教育、防災、コミュニティ活動など市民生活全体を含む、「地域福祉」を展開軸にしたまちづくりのマスター・プランである。

**高齢・障害に関するあらゆる相談を受けつける
「総合相談コーナー」を開設**

現在、各区には保健福祉センターが設置されている。「総合相談コーナー」には、保健婦、ケースワーカー、OT(作業療法士)またはPT(理学療法士)が配置され、サービスの選択、調整、決定までを1つの窓口で実施する。おもな業務内容は、介護保険の適用を受けない高齢者へのサービスの提供(健康づくり、寝たきり・痴呆予防を含む)、障害者福祉サービスの提供(精神障害、難病を含む)、介護保険のサービス調整(介護支援専門員や介護サービス事業者との連携)などである。

保健・医療・福祉と地域が連携する同市の高齢化社会対策は、全国から注目を集め、いつしか「北九州方式」と呼ばれるようになった。同市の取り組みは、厚生省老人保健福祉局が、今後、市町村が老人福祉計画を策定する際に参考となるであろう全国の先進事例を集めた「老人保健福祉計画参考事例



総合保健福祉センター。敷地面積4,107㎡、延床面積17,670㎡、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



最新機器が並ぶ健康づくりセンター



テクノエイドセンター・喫茶コーナー

集」にも紹介されている。

「北九州方式」の特徴は、住民との協働による新しい地域福祉システムの構築と、高齢者対策、障害者対策、児童・母子福祉対策の包括化である。

**小学校区、区、市の三層構造で
地域福祉の充実を図る**

大都市でありながら地域の連帯感が強く、企業や労働団体、医師会などの民間団体も地域に根づいているのが、北九州市の特徴だ。同市では、このような地域の財産を生かして、市全体を「地域(小学校区)レベル」、「区レベル」、「市レベル」の三層構造に再構築し、それぞれのレベルで、地域住民をはじめ、自治会などの地域団体、医師会、企業、ボランティア、学校、行政などが連携・協働して、支援の必要な人を地域全体で支え合う仕組みづくりを行っている。

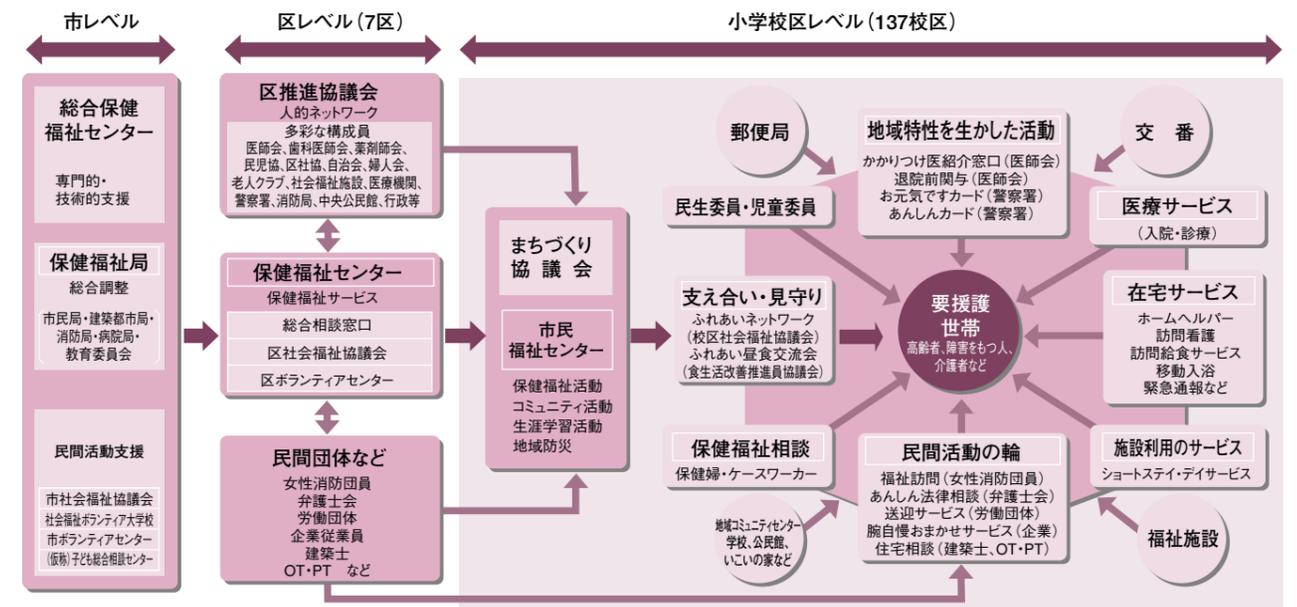
同市は、地域住民の交流、保健福祉活動や生涯学習、安全・防災など、地域活動を行う拠点として、137の小学校区にそれぞれ、市民福祉センターの整備を進めている。市民福祉

センターは、地域公民館のない74小学校区に新たに設置(うち32館は設置済み)するとともに、残り63の小学校区にある地域公民館については、当面、公民館と市民福祉センターの2枚看板で対応するが、将来は市民福祉センターに一本化する予定である。センターの運営は、まちづくり協議会に委託されている。新設されるセンターの建設費用は約2億円。

市民福祉センターの設置に合わせて、小学校区を基本とする総合的な地域活動を進める団体として、まちづくり協議会を新たに組織化。同会は、自治会、婦人会、老人クラブ、校(地)区社会福祉協議会、民生委員、児童委員、PTAなど、地域のあらゆる団体を横断的に組織化したものであり、各構成団体と協働しながら、それぞれの地域性に根ざした取り組みを行っている。

すでに、市内の約9割の校区・地区では、地域住民による見守り、助け合い、話し合いの活動である「ふれあいネットワーク事業」が、社協を中心に実施され、今年度中には、市内全域に広がる見込みである。昨年度で、定期的に声かけや見守りなどの訪問を行う「福祉協力員」は7340人、ゴミ出しなどの日常的な援助活動を行う「ニーズ対応チーム」は2686人と、合

「北九州方式」による地域福祉ネットワーク(保健・医療・福祉・地域の連携)



計で約1万人の地域のボランティアが活動している。

支援の必要な高齢者や障害のある人をはじめ、市民誰もが、住み慣れたまちで暮らし続けるためには、公的サービスの充実とともに、人と人のふれあいを大切にした地域での見守りや支え合いが、両輪として機能する必要がある。小学校区を基礎単位とし、区と市で重層的にバックアップする北九州方式は、公と民の両輪が円滑に機能する仕組みであるといえる。

保育所も入居する複合施設 総合保健福祉センターがオープン

総合保健福祉センターは、地域福祉システムを専門的・技術的に支える中核施設の役割を担う。地上7階、地下1階の建物には、市医師会、市歯科医師会、保健・医療・福祉情報センター、精神保健福祉センター、健康づくりセンター、保健所、障害福祉センター、保育所、講堂、夜間・休日急患センター、テクノエイドセンターなどの施設で構成される。

建物へはモノレール駅からペDESTリアンデッキを渡って直接アクセスでき、建物内のトイレ、エレベーターなどは高齢者や障害をもつ人への配慮が行き届いている。

北九州市における介護認定審査はすべて、センター内の講堂で行われる。審査会は毎週2回、1日平均約680人の審査を、延べ370人の委員により実施される。

健康づくりセンターは、市民の健康づくりのための中核施設である。トレーニングルームや1周80mのランニングデッキなどの運動施設を備え、生活習慣病予防のための運動・栄養・休養のプログラム作成や、健康教室を実施し、市民の健康づくりをサポートする(有料)。

保育所では、夜間保育、乳幼児保育、延長保育、一次保育のほか、市内でははじめて病後児保育を実施する。

テクノエイドセンターは、福祉用具(テクノエイド)の展示館と総合相談窓口の機能をもつ。展示スペースには、数多くの福祉器具が、移動関連用品、トイレ関連用品、パーソナルケア関連用品、入浴関連用品・入浴体験コーナー、コミュニケーション



小倉駅周辺はバリアフリー化されている

ン関連用品などのコーナーに分けられてレイアウトされている。専門の相談員が福祉用具の相談に乗り、リハ工房では、リハ工学技士が必要に応じて福祉用具の改良や製作を行う。入り口脇の喫茶コーナーは、障害のある人たちが経営。

北九州ブランドの福祉用具を開発し 地域経済を活性化

北九州市は、産業構造の転換や高齢化をプラスに結びつけて、民間の地域活性化団体である(財)北九州活性化協議会(KPEC)と共同で、「福祉産業の創出・育成」に取り組んできた。1996年には市、KPECに加えて、医師会、福祉団体、民間企業も構成メンバーとなり、「福祉を生かした地域活性化検討委員会」を設置。市民のニーズに応じた福祉機器の開発やサービスのありかたについて、突っ込んだ討議がなされていた。

福祉は行政の領域なので、高齢者、障害をもつ人、あるいは介護士などの中間ユーザーのニーズを、民間企業が的確に把握するのは難しい。開発にあたっての情報が決定的に不足しているのが、現状である。そこで、同市は1998年4月、福祉用具に関するさまざまな問題を解決し、福祉用具にまつわる情報の収集・発信、開発から販売に至るまでの作業を一貫して実施および支援するための組織として、福祉用具研究センターを設立した。同センターの最大の狙いは、北九州ブランドの福祉用具を開発し、福祉をテコに地域経済を活性化させることである。同センターのスタッフは現在6人。うち5人が企業からの出向者で、1人が市からの出向。

小倉都心地区 バリアフリー推進計画

5市対等合併でできた北九州市には、中心と呼べる地域は存在しなかった。市は現在、小倉駅周辺地区を都心部に選定し、商業機能、交流コンベンション機能の集積を行い、政令市にふさわしい顔づくりを進めている。小倉都心地区は、JR小倉駅



ペDESTリアンデッキに設置されたエレベーター



紫川に架かる「太陽」をモチーフにした橋

の改築に合わせて、都市モノレールの駅舎への乗り入れも行われ、交通の結節点としての機能も高まった。

市は、同地区をバリアフリーのまちづくりのモデル地区に選定、1997年には、歩行者空間(道路・公園)の点検活動を行った。点検参加者は、高齢者、障害をもつ人(視覚障害、聴覚障害、車イス利用)、一般市民、商店主、道路占有者、公共交通機関、公安委員会、道路管理者など約120人。JR小倉駅と主要施設や商店街を結ぶ2ルートを、実際に移動しながら、車イスの体験乗車や、アイマスクによる視覚障害体験を通じて、問題箇所をチェックし、ルート図への記入を行った。

市は昨年、「バリアフリー推進計画」を策定、対象地区をJR小倉駅を中心に都市機能が集中する約1km四方、面積150haに設定した。事業内容は、快適歩行空間のネットワーク形成(15路線の広幅員化、段差解消、87カ所の段差解消、誘導ブロック6.3kmの敷設、駐輪場、ペDESTリアンデッキの新設)、歩行支援施設(エスカレーター、エレベーターの設置)、民間施設の改善(ハートビル法、建物出入口の改善指導)、市民啓発や支援情報の提供である。事業は、約50億円を投じて行われる。

水辺環境を快適化させる 紫川マイタウン・マイリバー整備事業

北九州市は小倉都心地区を南北に縦断する紫川をシンボルリバーとして整備し、東西軸の強化を図る「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」に取り組んでいる。同事業の目的は、治水対策と100万都市にふさわしい快適な水辺環境づくり。

川と周辺道路、公園、市街地の整備を一体的に行い、快適な都市環境づくりをめざすこの事業がスタートしたのは1990年。当面の事業区域(延長約1.1km)の事業期間は2005年までで、河川整備、道路整備、橋梁整備、公園整備、市街地整備が行われる。

橋梁整備では、10本の橋が架け替えられる予定で、現在までに6本が完成、2本が整備中である。それぞれの橋は「木」、「太陽」などをモチーフにつくられる。紫川に架かる最古の橋



北九州市長
末吉興一氏
すえよし こういち ●1934年生まれ。
1958年東京大学法学部卒業、同年、
建設省入省。住宅局住宅総務課長、
国土庁土地局長などを歴任。1987
年から現職

は、往時にシーボルトや伊能忠敬も渡った旧長崎街道の起点、常盤橋。この橋は昔懐かしい木の橋として再現されている。中心市街地と市役所や小倉城のある勝山公園を結ぶのが、太陽をモチーフに整備された橋だ。公園内に昨年、松本清張記念館や小倉城庭園がオープン。

水に親しむ空間として、滝や州浜広場が整備され、紫川の護岸には自然石が使われている。馬借地区には、車イスで川縁に降りられるスロープを完備。

かつては、悪臭を漂わせていた紫川の水も、鮎が泳ぐほどに浄化された。紫川を都心のオアシスとして整備する構想は、周辺の商業施設も巻き込んで、現在も続けられている。

北九州ルネッサンス構想の 4大プロジェクト

同市は蓄積された技術力やアジアとの関係を最大限に活かして、新たな産業都市としての飛躍をめざしている。都市整備の骨格となる4大プロジェクトがすでにスタート。

「新北九州空港」は、24時間型の本格的な海上空港として、2005年開港予定で急ピッチで建設が進められている。アクセス道路や鉄道の整備も同時進行中だ。現在の空港跡地は、東九州地域の中核となる商業・物流拠点などが構想されている。

「響灘環黄海ハブポート」は、黄海を囲む中国や韓国との物流拠点として計画されており、大型コンテナ船(大水深)にも対応する。「東九州自動車道」は高速道路ネットワークの拠点、「北九州学術・研究都市」はアジアの学術・研究の拠点である。

北九州市の概要

- 面積:487.71km²
- 人口:101万1762人(1999年10月現在)
- 世帯数:40万8422世帯(1999年10月現在)
- 高齢化率:17.7%
- 市の予算:5521億5400万円
- 病院数:89

筑穂町

高齢者の社会参加を支援するために
独自に無料バスを運行

Operates a "community get-together bus" free of charge

ケア施設を
小・中学校の近くに造る

筑穂町は1955年、3村の合併により誕生した町である。同市は県のほぼ中央に位置し、福岡都市圏と飯塚市に接し、筑豊地帯にも近い地理的要衝だ。町内には、小倉と長崎を結ぶ歴史の道、旧長崎街道が走っている。

3村合併後は、農業と鉱山を2大産業とし、人口約2万を数えた。しかし1970年の日鉄嘉穂鉱業所の閉山により、状況は一変する。過疎化が急ピッチで進み、人口は半減。町は活性化策を打ち出す必要に迫られた。

1986年、町内の開業医である永芳達夫氏が町長に就任してから、地域活性化の具体的なプロジェクトが動き出した。人工芝のスキー場を中心とする野外活動施設「サンビレッジ」が開設され、町外から、多数の交流人口を集めるようになる。運営主体の財団法人サンビレッジ茜は、野外活動と福祉の2事業部門からなり、町長が理事長を兼務し、2人の常務理事が各事業を統括している。

福祉部門は健康福祉総合センター(p26)の運営、高齢者生活福祉センターの運営、児童館(学校保育含む)の運営、ホームヘルプサービス事業を行い、町の保健・福祉における中核



町の中心に位置する健康福祉総合センターのホールでは、地域住民のさまざまなアクティビティが行われる

的な役割を担う。町社協の事業範囲は、ボランティアの養成などに限られているのが現状だ。

1995年にオープンした高齢者生活福祉センターは、老人デイサービス事業(1日利用人員15人)、居住部門事業(5人)、児童館で構成される。デイサービス・ルームの一角に子供の遊び場が設けられているのが特徴的。

町の福祉行政の根幹は高齢者を孤立させない施設づくりだ。小・中学校が集まる町の中心、鉱山会社の社宅跡地に昨年、健康福祉総合センターがオープン。

同センターは高齢者施設、障害者施設、障害児施設、健康増進施設からなる複合施設で、敷地内に車イスで散歩が楽しめる周回遊歩道やゲートボール場もある。現在、新たにケアハウスを建設する構想ももち上がっている。

バス利用者は
高齢者と子供たちがほとんど

筑穂町の面積は約75km²、その6割以上は山林が占める。閉山後の人口減により、中学校が3校から1校に統廃合され、遠距離通学する生徒が増えた。

町は山間部の小・中学生を送迎するスクールバスの運行と、高齢者をケア施設に送る福祉バスの運行を、バス会社に委託。1台のバスが、スクールバスおよび福祉バスとして運行されていた。

同町には路線バスが走っているが、バス停まで徒歩で1時間以上かかるケースもあった。町民からは、中心部への買い物などに気軽に利用できるバスを運行してほしいという要望が強く、町は1993年、28人乗りの小型バス2台を独自に運行することを決めた。「町民ふれあいバス」と名づけられたこのバスは、大人・子供を問わず無料で、日曜・祝日を除いて毎日運行される。年間の費用は約3450万円(スクールバスを含む)。

「町民ふれあいバス」の導入にともない、バスの走行路線は全町域に拡大された。路線バスのバス停脇に設けられた停車位置34カ所に加えて、新しく47カ所を設置、計81カ所の

停車位置が設けられた。停留所表示板のデザインは近畿大学九州工学部産業デザイン科の曾根靖史教授に依頼。約60cm四方の木製の板に、停留所名や発車時間を記した案内標識が作成された。

自治体が赤字バス路線に補助金を出すケースはあるが、自ら無料バスを走らせる試みはきわめて稀である。「町民ふれあいバス」は1998年から3台で運行されており、利用者のほとんどは車の運転ができない高齢者や子供たちだ。

中学生の
海外ホームステイ研修制度を実施

1998年、旧長崎街道沿いの古い町並みに、「山村留学ふれあい館」がオープンした。同館は都会の子供たちに豊かな自然を楽しんでもらい、町の子供たちと交流し、新しい知識を身に付ける場として建設された。コンピュータの指導は九州工業大学情報工学部の大学院生3人が当たる。町は彼らに宿舎を用意し、生活指導員として給与を支給。

同館を利用した制度として、都会の子供たちが、1年間、町の小学校で学び、遊ぶ、「山間留学制度」も設けられている。昨年は3人の留学生在が、同町の小学校に在籍して、中山間地の生活を体験し、都会に帰っていった。今年は2人が在籍している。

同町では、「ふるさと創生事業」として国から補助された用途が限定されない1億円を、海外との人的交流の資金に充てた。英米人を招いての英語授業と、中学生の海外研修制度(毎年10人)を1991年にスタートさせた。同町では、人材育成や人的交流に力を注いでいる。

また新規就農者の誘致にも積極的に取り組んでおり、情報提供をはじめとする相談制度や、技術・研修制度の強化を図っている。町内の山間部に約5m幅、全長5kmの林道が計画されており、林道沿いに農地を整備し、新規就農者へこの農地を提供して、農業の活性化を図る構想がある。

町はさまざまな施策を通して、魅力溢れる地域を創造し、定住人口、交流人口の増加を図り、過疎化に歯止めをかけようとしている。町のキャッチフレーズは、「希望ある町、住みたくなる町」である。

人と自然が
調和したまちづくり

同町には、県立自然公園の指定を受けている三郡山など多数の景勝地がある。このような恵まれた自然環境を守り、育てていくために、同町では、乱開発を防ぐための施策が検討されている。中心部を占める遊休地では、活性化にポイントを置いて、行政や土地所有者が一体となって、土地の有効利用が話し合われている。

1990年にスタートした観光計画の核となるのが、人工芝ス

筑穂町長
永芳 達夫氏

ながよし たつお ●1936年生まれ。熊本大学医学部卒。1967年に筑穂町内に内科・外科医院を開業。1986年より現職、現在4期目

キー場のあるプレイゾーン、キャンプ場広場、オアシスゾーンからなる「サンビレッジ茜」である。同施設は、三郡山の大自然に抱かれ、ファミリーで楽しめるので、町外からの人気も高い。この周辺は、日本最初の「日の丸」を染めた筑前茜染めの発祥の地であり、観光資源として公開されている。

同町では、年々高まる水需要に応えるために、水の有効利用にも注力。現在、上下水道は地下水に、農業用水は溜池などにその水源を求めているが、水の安定供給や水質保全のために、河川の改修や溜池・用排水路の整備、浄水場の改修などが行われている。これからは、水と人と産業の調和を目標に、親水空間の整備などを図っていく構え。排出量の増加とその種類の多様性が問題になっているゴミ処理については、空き缶、空きびんなどの再利用を中心に、ごみの軽量化に努めている。

筑穂町の概要

- 面積: 74.81km²
- 人口: 1万1772人(1999年9月現在)
- 世帯数: 3909世帯(1999年9月現在)
- 高齢化率: 21.7%
- 町の予算: 54億4056万円(1999年度当初予算)
- ホームヘルパー数: 5人

